

移情閣友の会 35周年記念の年を迎えて、設立当初の思い出

35年前、国道2号線沿いの六角堂が一般公開の為に改修中に、中で書道展が開催されているのを知り、娘の小学校のPTA活動の一環として見学させていただいた。その時のご縁で記念館の受付業務等を手伝う事になり、友人2名を誘い主婦3名でお手伝いを始めた。

1984年11月の開館式典も終え、その年の暮れに移情閣の3階で「移情閣友の会」の第1回集会が開かれた。元神戸大学学長で初代友の会会長の須田勇先生が「移情閣を中心に中国のみならず世界的な視野で文化活動の輪を広げよう」と挨拶され、年が明けた1月19日の第1回友の会企画委員会で、主婦3名の内、会計喜多村さん、涉外島田さん、そして私が友の会の事務を担当することとなった。その年は初年度にもかかわらず「移情閣ニュース」を2カ月毎に発行し、3月に広東講座、4月に東洋医学講座を開催、5月には太極拳同好会が発足、7月には岡山の范曾美術館への会員親睦バス旅行、10月中国語講座開講、11月犬養孝先生の万葉講座、そして12月には開館一周年記念の「陳瞬臣とアグネスの集い」を神戸国際会館大ホールで開催と、次から次へとイベントを開催し、成功裏に終えた。今残された資料を見ながらよくもこれだけの行事を実施し、多くの参加者を得て終えている事に驚かされる。その後も公開講座、バス旅行、移情閣まつり等の行事と中国語講座、同好会活動、「孫文の足跡をたどる」中国旅行など年中行事を毎年展開し、会員数もうなぎ上りに増加、交流の輪も広がった。その時々の方々の顔が走馬灯のように浮かんでくる。その活動の一つ一つが大きな実りを結び、次へと繋



移情閣友の会副会長 河合 純子

がっていったのは、なぜだろうと今考えると、その企画と運営に係わって下さった有志委員の皆さんがこの舞子地域で其々に陶芸家、警察官、画家、薬剤師などとして活動しながら、そのキャリアを移情閣友の会での活動に上手く活かして下さったからだと思われる。35年の間には明石海峡大橋の建設で上舞子公園の仮設展示場への移転や阪神淡路大震災など色々な事もあったが、私自身友の会事務局長としての皆様との協力は本当に楽しいものであり、沢山の人の大きな輪の中で、多くの良き友をこの地に得た。

時代の変遷と共に地域住民の友の会へのニーズも変化してきたが、友の会活動は新しい担い手により、益々発展している。ただ、高齢化に伴い、今この地での友の会活動の在り方や、地域に何が必要かを再考し、その活動が地域の人々のニーズに答えているかを省みる必要もあるのではないだろうか。今日も35年前と同じように播磨灘に沈む夕日は辺り一面を真っ赤に染めている。この美しい舞子の地で今後もこの風景に溶け合った移情閣（孫文記念館）と友の会活動であってほしい。

着任のごあいさつ



孫文記念館事務局次長
東谷 眞吾

4月から孫文記念館の事務局次長として勤務しております東谷眞吾です。この3月までは兵庫県職員として県で働いており、今回、縁あって、孫文記念館の運営に携わらせていただくこととなりました。皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

私は中国の古代史が好きで、史記や孫子の本をよく読みます。これらは2000年以上前に書かれた書物ですが、中国の偉大な叡智に触れ

ることができ、読む人の心に感銘を与え、人生を実り豊かなものにしてくれます。最近ではキングダムも大ヒットしており、中国の歴史物は大いに注目されていると感じています。

移情閣友の会は中国の文化と深い関わりを持って活動をされておられます。その活動を通じて、中国や台湾の良さを多くの方々に、もっと知っていただいて、友好や交流を促進し、孫文記念館を内外に盛り立てていただけましたら幸いです。よろしくお願いいたします。

ところで、私の前任者の中部前次長ですが、9年間にわたり当館で勤務いただきましたが、この3月をもって次長を退任されました。引き続き、当館で、週一回、施設管理業務に従事いただいておりますので、今後とも変わらずよろしくお願いいたします。